

(案)

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）

1 あいさつ

2 自己紹介

2 議事

議題（1）第2期岩倉市地域福祉計画の事業進捗について資料2を用い、事務局から説明。

委員長：去年の今頃から今に至るまで地域に出て行ってやっていくということがうまくいかなかった。ただ、まったくやっていなかったわけではない。できなかったことは限りなくあるが、できなかったことだけを話していくと下を向いていってしまう。できたことを一つずつ評価しながら前に進んでいきたい。

委員：3～5月の自粛期間は何もできなかったが、今は違う。6月ごろ少しずつ活動を開始したらすごく喜ばれた。最近も出前講座で防災の話をしてもらおうと思ったら緊急事態宣言で行政ができないということで、自分で話すことになった。日赤の資料があったので、それを使って自分で話をしたら評判がよかった。行政がやれないことは自分でやる。できることならできるので始めていくべきと思う。

委員：地域福祉の課題が犠牲になった、活動できなかった。不安が蔓延している中で一年を過ごした。ただ、コロナだからこそ考えられる課題が見えてきた。今だからこそ地域共生社会を考えるチャンス。そういう環境が必要。コロナ禍だからこそできたことを校区連絡会で共有してほしい。校区による温度差を埋めてほしい。

委員長：アンケートを分析して意見交流につなげるということも大事と思う。

委員：民生委員活動で重要な事は役員会で決定し、役員以外の方に郵送で情報共有を図った。赤ちゃん訪問に関しては、ドアノブにプレゼントをかけておき、お渡ししたりして、高齢者には電話でコミュニケーションを図る等工夫した。一人暮らしの高齢者は安否確認等が直接行えず、不安な点もあった。

委員：ケアドカフェも今は活動中止。早く再開をという声もある。コロナのうわさが入ってくるが、不確かなので不安になる。認知症ケアについても一般市民に講習ができない。オンラインという方法もあるが、高齢者には難しい。

委員長：コロナはまだ長引く。いつまでも中止というわけにはいかなので、再開についての方法を探していかなければならない。

委員：ボランティア連絡協議会は活動をずっとしていない。今度総会はやるので、社会福祉協議会が実施したアンケートを活用して情報共有していく予定。

委員長：意見交換は大切。問題はどのような方法でやるのかということ。

委員：障害者部会も高齢化によって後継者がいない。運営がやっていけないし、広報の原稿も書きようがない。イベントもなく外出できないとしみじみ思う。補助金もカットされる団体が多いと聞く。市に相談しても話は聞いてもらえるが解決策が聞けないと相談を受ける。実行力をもって行ってほしい。計画倒れにはしてはいけない。

副委員長：各々活動計画を立ててきたと思うが実施できなかった。顔を合わせて検討し合うのが基本であったが、できなくなり中々事業が進まなかったと思う。色々と制限される中であらゆる

(案)

知恵をだし、経験を積んできたと思う。これからは何をしたら上手くいくのかを考えていかなければならないと思う。社協としても共募の募金や社協の会費を直接依頼できなくなり、財源に影響がでた。

委員長：アンケート結果を読み込み、現在の課題も精査し、明確にしてどう動いていくのかを考えていくべき。今年度は事業が中止の年であったが、来年度からは再開に向けて知恵を出していかなければいけないと思う。

議題（２）第２期推進と第３期岩倉市地域福祉計画の策定について

資料３、４を用い、事務局から説明がされた。

委員長：第３期計画の策定スケジュールについてはまず荒い案を示していただいた。ここからどういう方針でやるのかということ事務局としてしっかりと考える必要がある。考えるべきことは多いので共有してほしい。

３ その他

特になし

委員長：他に無ければ、会議を終了する。